



太田 吉浩議員

野焼き責任者はどうなった

太田議員

野焼き再開を妨げている課題解決に向けた取り組みを、昨年3月の一般質問で取り上げた。あれから1年半が経過した。①前回、被災した牧野道の復旧を「令和元年度にめどをつけたい」と答弁があったが、復旧は完了したのか。②担い手不足解消に向けて、「農業後継者の育成に取り組む」と村長は答弁したが、実行とその結果は。また前回、負担軽減の為に恒久防火帯設置・草原特区を利用した保安林解除を提案した。③その進捗と、責任所在は区長から村への移譲は進んだのか。

今後、村が責任を負う

農政課長

①県の支援で、昨年度、白川地区の牧道改修が完了した。今年度は長野牧野・下碓牧野の改修を計画している。

村長

熊本地震の影響で、37地区の内10地区、630haの原野で野焼きが中断されている。今年3月、県の支援で白川牧野をモデル地区に指定し、防火帯を整備。約80haで野焼きを再開できた。②作業負担の軽減を図るべく、恒久防火帯の設置は県と連携して推進したい。保安林解除は出来ないが、スギ・ヒノキからクヌギへの樹種転換を実施した。放牧農家の振興策も併せて行う。③これまで火入れ責任者だった地元区長は、現場監督に。今後は、村が責任を負う。

太田議員

7月の豪雨災害で県南地域に大きな被害が出ている。県頼みばかりではなく、国が指定した草原特区の恩恵を受けられるよう、国への要望活動で予算獲得を。

赤字運営が続く「乗り合いタクシー」の今後は

太田議員

本格運行から赤字体質が改善されない「予約型乗り合いタクシー」。①この事業の評価は。これまで議会からも業務改善を求めてきたが、②収支改善に向けて、どのような取り組みがなされたのか。村の財政悪化が明らかになり、行財政改革は待ったなしだ。③今後の運営方針は。

廃止を検討したい

村長

①事業経費に対して、利用料収入が1割程度と大変厳しい状況だ。この事業は試験的に始め、震災後のインフラ復旧までの代替策として本格運行を行った。現時点は臨時的な運行と認識している。②利便性を向上させ利用者を増やしたいが、タクシー事業者や他の公共交通への民業圧迫が懸念される。限られた区域や条件での改善しか出来ないが、乗降場所の検討を。経費を抑えるのは難しいが、区域を廃止し一律300円に値下げし、利用者を増やしたい。③交通インフラが復旧してきたので、乗り合いタクシー事業は廃止を検討したい。廃止後は、民間タクシーやバスの乗車補助に転換していきたい。



太田議員

多額の税金を投入しながら、簡単に廃止するのか。赤字体質にもかかわらず、運営を外部委託している。村直営で出来ないのか。この事業に限らず、村の外部委託体質が財政を圧迫しているのは明らかだ。